

「インド次世代共創人材招へいプログラム MIRAI-Setu（未来架け橋）」について

1 概要

- IT人材を中心にインドから工学系の大学生と大学院生 39 人と教員 1 人を 1 か月間、福岡・東京・浜松に招へいする外務省の事業。
- 学生は企業でのインターンシップのほか、日本の製造業などにおける最先端の技術の見学、経営者や専門家による日本経済などの講義の受講、日本文化の体験を行う。
- 日本は 2030 年までに最大 79 万人の高度先端 IT 人材が不足するとの試算がある一方、インドでは工学系の大学生が毎年約 150 万人卒業すると言われている。8 月にモディ首相が来日した際には、両国間で「日印人材交流イニシアティブ」を発表した。

2 福岡でのプログラム詳細(10 月 5 日～22 日)

福岡には、インド工科大学ハイデラバード校、インド情報技術大学ジャバルプール校の学生 19 人（大学生 10 人、大学院生 9 人）と教員 1 人が滞在。

- インターンシップ研修：
 - ・麻生、九州電力、クラブティア、正興電機製作所、西鉄グループ各社の県内企業 5 社に分かれ、8 日間のインターンシップを経験。
 - 企業訪問等：
 - ・安川電機津田純嗣・特別顧問による「ロボット産業の歴史と現状・未来」に関する講義
 - ・西日本シティ銀行久保田勇夫・特別顧問による「日本と日本経済について」に関する講義
 - ・在福岡インド総領事館の訪問
 - ・服部誠太郎・福岡県知事の表敬訪問
 - 施設見学等：
 - ・福岡市内：CIC FUKUOKA、九州大学カーボン・ニュートラル・エネルギー国際研究所を訪問。
 - ・北九州市内：ロボット村・安川電機みらい館、TOTO ミュージアムで最先端の製造業について、タカミヤ環境ミュージアムで北九州市が公害を克服して環境都市へと変貌を遂げた歴史を学ぶ。
 - 日本文化の体験：
 - ・休日には、宗像大社、太宰府天満宮、櫛田神社、東長寺、南蔵院、小倉城訪問のほか、提灯づくり体験、フルーツ狩りなど、多岐にわたる日本文化を体験。
- ※ 東京での来日オリエンテーションでは、黒田東彦・前日本銀行総裁から「世界が直面する 4 つの課題～分断・人口・AI・気候変動」と題した講義を受講。

3 プログラムの実施団体

本プログラムは、公益財団法人 AFS 日本協会（東京・加藤暁子理事長）が実施。同協会は高校生の交換留学を中心に、外務省の対日理解促進交流プログラム、および文科省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト+」などの実施団体としても長年の実績を持つ団体である。

(本件に関するお問い合わせ)

公財財団法人 AFS 日本協会 理事長 加藤 暁子

TEL : 090-1113-3914

Email : a-kato@afs.or.jp